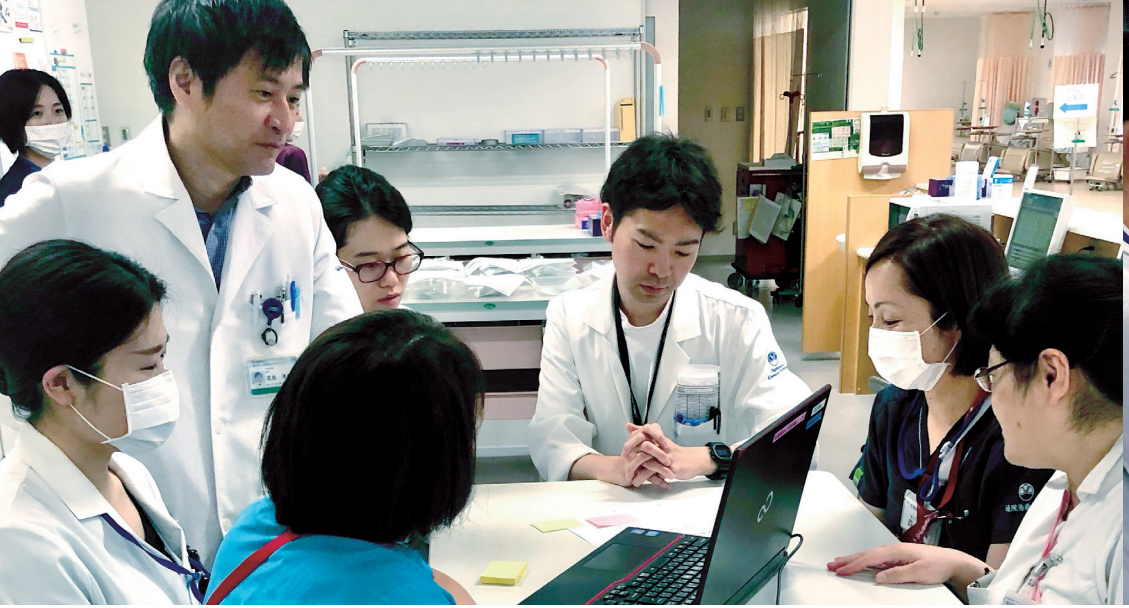
当院で就職を希望される皆様へ

国立がん研究センター
中央病院
薬剤部のご紹介

国立がん研究センター
中央病院
National Cancer Center Hospital



臨床業務について

内服抗がん薬の治療を受ける外来患者さんを対象に薬剤師外来を実施しています。医師の診察を受ける前に、薬剤師が患者さんと面談を行い、安全・適切に治療ができるように、患者さんへの説明や、医師に副作用に対する支持療法薬の処方提案など行っています。あらゆる薬剤に対する知識はもちろん、疾患に対する理解も必要であり、迅速かつ正確に対応できる能力が求められます。
薬剤師外来の担当者の大半がレジデントの卒業生です。

レジデントの患者指導月平均件数
（3年目レジデントの2021年8月実績）

109人

外来患者61人　入院患者48人

（3年目レジデントの2021年8月の平均）

がん専門薬剤師による薬剤師外来

担当8名中7名は
薬剤師レジデント出身

＊がん専門薬剤師は、医療に関する広告・標榜可能な専門資格として、薬剤師で唯一認定されている資格です。

レジデントも豊富な臨床経験が積めます。
乳がん、大腸がん、胃がん、肺がん、肝臓がんなどのメジャーながんはもちろんのこと、血液がんやその他稀な疾患を経験することもあります。多くの患者さんを担当することができ、がん専門薬剤師の申請時に必要な50の症例サマリを書くことも可能です。より多くの患者さんたちと接し、多くのことを学んでください。

セントラル業務について

様々ながん医療を最先端の設備の下で。薬剤部セントラル業務は大きく分けて
内服薬調剤業務・注射薬調剤業務・抗がん剤無菌調製業務で構成されています。

内服薬調剤業務

注射薬調剤業務

抗がん剤無菌調製業務

特徴

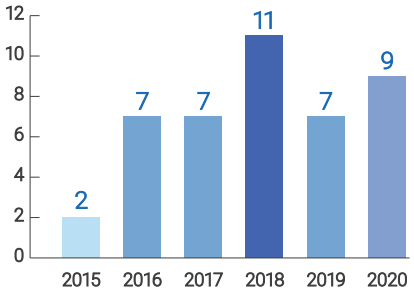
それぞれの業務で計数調剤管理システム「F-WAVE」、注射薬自動払出システム「UNIPUL」、抗がん剤自動調製装置「CytoCare」などを導入、最先端の設備が整っていることも特徴です。
採用している抗がん剤は275種類を超え多岐にわたります。
他の病院や調剤薬局では取り扱うことの少ない抗がん剤も多く取り扱っています。

これらの業務から得られた知識を応用し柔軟で多角的な思考を病棟業務で発揮できる薬剤師は多職種からとても頼られる存在です。また、当院では調剤を含む薬剤業務補助者としてSPD(Supply Processing Distribution)を導入し、テクニシャン制度を取り入れています。薬剤師が薬学的業務により集中することで適切な医療を正確に患者さんにお届けすることができます。

研究活動について

世界を視野に研究を学ぶ
英論文掲載数 7.2 件 / 年の実績

私たちはコロナ禍においても9報の英論文を発表しました。また、過去6年の英論文の掲載数は年平均7.2報です。がん医療の発展に資するエビデンスを、世界に発信するため日々研鑽を積んでいます。



なぜこの実績が残せるのか？

医師をはじめとした多職種との緊密な連携、毎月多彩なテーマで充実したセミナー、研究することを使命とする専門病院の姿勢これらが私たちの強みです。

【2021 年度日本医療薬学会YIA（若手研究者賞）受賞者よりコメント】

寺田公介先生（13 期レジデント）

テーマ「婦人科がん領域におけるカルボプラチン脱感作療法の実態調査」

「頑張ってやっていれば誰かが見てくれている」それが研究を通して私が学んだことです。レジデント教育の中では必ず研究テーマを定め調査研究活動をします。そこで出会った諸先輩方や同僚の存在は本当にありがたいです。指導担当の先生は研究の仕方を教えてくれるだけでなく、一緒に文献を探してくれたり、アドバイスをくれたりします。一方で、みなさんレジデントの経験があるため、あえて手伝わないときもあります。それは成長のためには頑張らなくてはならないこと。

その時は、私たちはその試練を受け入れひたすらに頑張るのです。先輩方は良く見ています。私がここまで頑張れたのは、「一緒に研究やってみるか？」と絶妙なタイミングで声を掛けてくれたある先輩の存在でした。私たちはこうした「研究をする文化」がある環境の中で育ってきました。医師の協力も得やすい環境ではありますが、当然厳しさも感じます。ただ、そんなレジデント生活の中に今回のような賞を頂ける素因があったのではないかと思います。これは国立がん研究センター中央病院の伝統です。

グローバル化への対応

国際化が加速している現代。
そんな世界の中で、皆さんはどんな薬剤師を目指しているのでしょうか？

私たち、国立がん研究センター中央病院薬剤部は、世界でもトップレベルのがん専門病院の薬剤師としての誇りを胸に、最新のがん治療に貢献できるよう、日々知識と経験を磨いています。また、アジアをリードできる薬剤師を目指し、海外施設と協力連携しながら、研究及び教育にも力を注いでいます。

中央病院ならではの国際化への取り組みとは

連携海外施設からの研修生受け入れ＆交流

中央病院の国際プロジェクト関連国例
- マレーシア
- フィリピン
- タイ
- ベトナム
- インドネシア

※COVID19終息後開始予定

海外研修のサポート

過去の短期研修先例
- MD Anderson Cancer Center（米 ヒューストン）
- Memorial Sloan Kettering（米 ニューヨーク）

海外学会での研究発表

連携国例
- 米国臨床腫瘍学会（ASCO）
- 同学会 - 消化管がんシンポジウム（ASCO-GI）
- 欧州臨床腫瘍学会（ESMO）
- 欧州臨床腫瘍学会アジア大会（ESMO asia）

ロジカルシンキング、MBTI 講座

講師は有資格者の先輩薬剤師！

有志英語クラブ主催

他部署、他施設からもzoomで参加拡大中！

卒後キャリアについて

レジデント修了した先輩にインタビュー：大塚 亮（第９期薬剤師レジデント修了）

Q. 病院薬剤師を目指したきっかけ・理由を教えください。

始めは MR 志望でした。ただ、病院実習で実際に患者さん指導させて頂き、また薬剤師と多職種との関わり合いを見てく中で、病棟薬剤師の必要性を感じました。そのような業務が楽しいと思えた事も大きい理由です。何よりお世話になった薬剤部の先生方が良い方たちで実習自体も楽しめました。僕は総合病院から当院のレジデントになったのですが、もう少しがんについて勉強しようと考えていた時に、当院のレジデント制度を見つけました。これならきちんと勉強できるカリキュラムもありますし、自分のやりたいことができると思い応募しました。

Q. レジデント制度は正直、生活面や研究など一般の病院薬剤師とは異なりますが、それでもやろうと思ったのですね。

そうですね。正直非常に覚悟がいりました。ただ、それ以上に得られるものが大きいと個人的に期待しました。実は嬉しいことに薬剤部だけでなく、病棟の看護師さんにも辞める時にすごく引き止めてくれました。けれども、最終的には「それだけやりたいと考えているなら」と送り出してくれました。レジデント生活では業務をしながら研究も進めなければならず大変ではありましたが 、送り出してくれた人たちの応援を無駄にしないためにも、最後までやり遂げなければと思い続けていました。それがかなり自分のモチベーションになりました。

Q. その時の覚悟が今、がん専門薬剤師となって報われたと感じますか。

感じます。今は知識も経験もパワーアップしている自信があるので、得たもので前の病院の人たちにも還元というか恩返しできたらいいなと思っています。

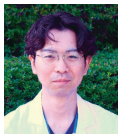
Q. 実際に当院で働いてみて良かったところはどころですか。

当院レジデントのカリキュラムですと、2 年目に複数の診療科をローテーションし、3 年目は固定の診療科で薬剤管理指導を行いますので、3 年間で体系的に主要な癌腫の経験を積んで知識を得ることが出来ることが大きな利点です。そのような環境で日々学ぶことで、がん専門薬剤師の資格取得要件である症例を集まりやすいのもメリットだと思います。

Q. 最後に一言

レジデントの 3 年間は決して楽な道ではありませんが、中央病院はがん医療を学ぶのに恵まれた環境です。チャンスは広がっています。一緒に頑張りましょう！

プロフィール



大塚 亮

第９期薬剤師レジデント

取得資格

がん専門薬剤師、
がん薬物療法認定薬剤師

担当部署

薬歴担当（消化管内科）、
薬剤師外来、医薬品情報管理室

略 歴

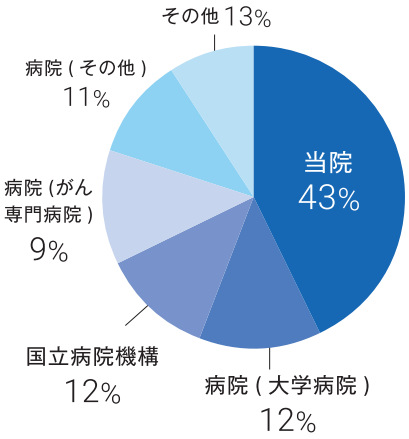
2009 年 04 月 将道会　総合南東北病院就職
2014 年 04 月 第９期薬剤師レジデントとして入職
2017 年 04 月 当院スタッフへ
2017 年 10 月 がん薬物療法認定薬剤師取得
2017 年 07 月 米国 MD アンダーソンがんセンター短期留学
2019 年 01 月 米国臨床腫瘍学会 消化管癌シンポジウムにて学会発表
2019 年 12 月 英語論文 (International Journal of Clinical Oncology) にaccept
2020 年 01 月 がん専門薬剤師取得

2021 年度資格等の取得状況

- がん専門薬剤師 14 名
- がん指導薬剤師 8 名
- がん薬物療法認定薬剤師 3 名
- 緩和薬物療法認定薬剤師 6 名
- 麻薬教育認定薬剤師 2 名
- 外来がん治療認定薬剤師 4 名
- 医療薬学専門薬剤師 4 名
- 医療薬学指導薬剤師 2 名
- GCP パスポート 1 名
- 感染制御認定薬剤師 3 名
- 抗菌化学療法認定薬剤師 2 名
- NST 専門療法士 3 名
- 認定事務実習指導薬剤師 3 名
- 糖尿病療養指導士 1 名
- スポーツファーマシスト 1 名
- 介護支援専門員 1 名
- 博士号取得者 8 名

レジデント修了後の進路

2021 年 3 月までの修了者 67 名中



その他：がん専門修練薬剤師、大学院進学、CRO、調剤薬局 etc

キャリアパス具体例

久保 晶子

第３期 薬剤師レジデント修了
主任（薬剤師外来担当）

1年目　現在

STEP01 レジデント → STEP02 当院スタッフ → STEP03 がん専門薬剤師 → STEP04 がん指導薬剤師 → STEP05 主任

道家 由行

第８期 薬剤師レジデント修了
厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品安全対策課 主査

1年目　現在

STEP01 レジデント → STEP02 当院スタッフ → STEP03 がん専門薬剤師 → STEP04 厚生労働省へ出向

施設情報

国立開発法人　国立がん研究センター中央病院　薬剤部

郵便番号：104-0045
東京都中央区築地 5-1-1
電話番号：03-3542-2511
ホームページ：https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/index.html

薬剤部ページ直通